

平成 18年度 大学教育の国際化推進プログラム (海外先進教育実践支援)

海外実習による異文化理解マインドの育成 - 学校現場における自律的实践を通して -

1. 取組みの概要

上越教育大学は、国際レベルでの学校教育とその教育者の養成の研究推進を目指し、平成 14年度に「国際交流推進室」を設置した。また、異文化理解マインドを持った教員を養成することを大学の社会的使命の一つとして位置づけ、その理念に基づいて、異文化理解科目「海外教育 (特別) 研究」を実施している。

本取組みは、「海外教育 (特別) 研究」の実績を踏まえ、海外学校現場インターンシップを通して、自律的アクションリサーチの実践を行うための新たな大学院授業科目「海外フィールド・スタディ」の開講と海外実習プログラムの開発を目的とするプロジェクトである。

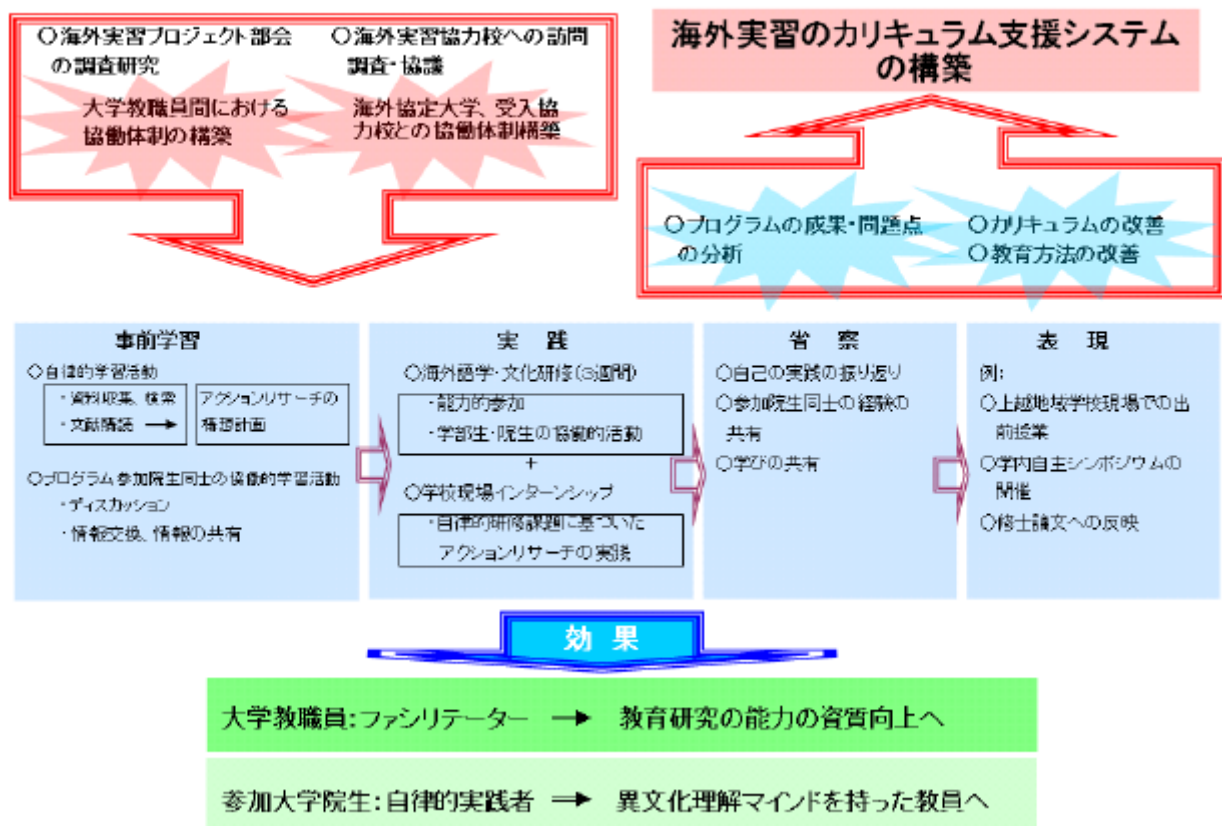
本プロジェクトは、本学の教職キャリア教育 (特色 GP として採択) 及び教師教育 (教員養成 GP として採択) として実践され効果をあげている学校現場での実践力育成を基盤とし、海外協定大学と学校現場及び学内大学教職員間の協働体制の構築を目指す。

* 「海外教育 (特別) 研究」は、昭和 58 年度から学部・大学院の授業科目として実施している約 10 日間の海外研修プログラム

海外教育 (特別) 研究「現地校での授業実践」



大学院授業科目「海外フィールド・スタディ」の構想



<本プログラムの問い合わせ先>

国立大学法人 上越教育大学 国際交流推進室 www.juen.ac.jp

取組担当者: 学長特別補佐 (国際交流担当) 臼杵 美由紀 (USUKI Miyuki) 025-521-3256

事務担当: 学務部研究連携室 国際交流チーム 025-521-3666 E-mail kkoryu@juen.ac.jp

2. 海外フィールド・スタディ

大学院学校教育研究科 (修士課程) 開設科目 (実習 4単位)

「海外フィールド・スタディ」は、海外の教育現場インターンシップを通して、自律的な研修活動を行うもので、これまで本学で積み上げられてきた教育現場との協働体制の構築と臨床的研究の実践をコンセプトとした大学院生対象の授業科目である。

教員養成・教師教育において、教員の資質向上としての実践力強化を図る体験的プログラムの導入は、多くの大学で試みられているが、本プログラムは、海外をフィールドとして大学院生が自律的な研修を行い、海外の教育現場での長期実践研究に従事するという特色ある取り組みである。

授業内容

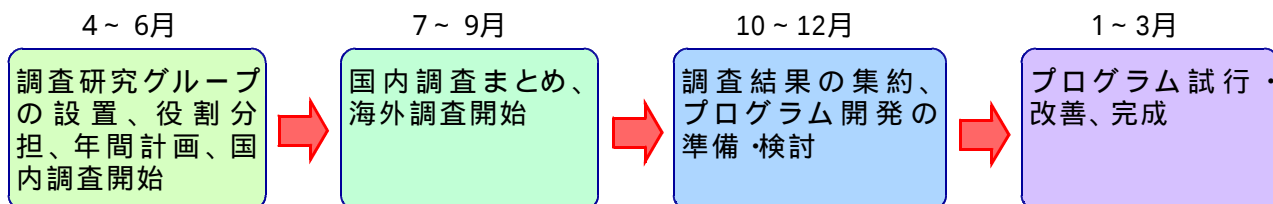
海外における教育現場に入り、学校現場インターンシップ (授業参観、授業実践、教員アシスタント、現場教員との交流、児童・生徒との交流) 等を行う。参加学生の自律的な学習活動を目指し、指導担当教官は、助言を行うファシリテーターとしての役割を担うものとする。

事前学習 (約 3～4ヶ月) として、自分の研究テーマや目的を明確にし、海外学校現場で、何ができるかを熟慮する。受け入れ先との連絡により、学校現場での研修や実習が効果的に行われるよう交渉を進める。

実践 (1ヶ月～1ヶ月半) においては、自己の目的に応じて行動するとともに、受け入れ先の学校にとっても、役に立つ存在であるよう、実践におけるリフレクションを伴いながら、積極的に対応していく。

事後 (2ヶ月～3ヶ月) において、海外研修からの学びを整理し、リフレクションをまとめる。事前、実践、事後を通して、すべての事項、自分の振り返りを記録としてファイルに綴る。事後の表現活動として、自主シンポジウムを開催したり、体験を修論に反映させられるよう検討する。

3. 平成18年度 of 取り組み (本プログラム)



4. 海外調査の実施先

平成19年度に海外実習実施予定のオーストラリア、及び本学協定校等のある地域において、現地調査 (大学及び現地校訪問) を行う。

- ・オーストラリア (ウーロンゴン、ウーロンゴン大学)
- ・中国 (ハルビン、ハルビン師範大学)
- ・韓国 (清州、韓国教員大学校)
- ・台湾 (嘉義・台中、嘉義大学・台中教育大学)
- ・トルコ (チャナッカレ、チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学)
- ・ロシア (ウスリースク、ウスリースク国立教育大学)



オーストラリア学校現場でのインターンシップ

5. 今後の計画 (平成19年度以降)

